

加古川流域の概要

平成20年7月16日

国土交通省近畿地方整備局
姫路河川国道事務所

— 目 次 —

- 1.流域及び河川の概要
 - 1.1.流域及び河川の概要
 - 1.2.治水の現状
 - 1.3.利水の現状
 - 1.4.環境の現状
 - 1.5.維持管理の現状
 - 1.6.危機管理の現状
 - 1.7.地域活動の現状

1. 流域及び河川の概要

1.1.流域及び河川の概要

1.1.1.流域

流域概要

加古川は兵庫県を代表する河川である。

流域面積 : 1,730km²

幹川流路延長 : 96km

流域市町 : 11市3町



加古川流域位置図



加古川流域図

上流部 (篠山川合流点～源流)

源流部に一部急流区間が存在するものの、概ね険しい山地の谷間にまとまった平野が存在し、低地の様相を呈する。



加古川（佐治川）源流部



加古川（谷底平野部）



支川篠山川 源流部に続く上流部



谷底平野部

中流部 (美の川合流点～篠山川合流点)

はん濫原が広がり、農耕地、市街地、商業地が分布する。

加古川は丘陵地や広々とした平地部を蛇行しながら流下している。

また、闘竜灘を中心とした広い露岩地がみられ、景観上の特徴となっている。



闘竜灘



中流部

下流部 (古新堰堤～美の川合流点)

古新堰堤、加古川堰堤、加古川大堰による湛水区間が断続的に分布する。
右岸側の高砂市や左岸側の加古川市は、工業地、商業地、住宅地が広がる。



下流部



加古川大堰湛水区間

感潮域 (河口～古新堰堤)

河口部には重要な生息・繁殖環境である干潟が存在する。
また、播磨臨海工業地帯の中核港である東播磨港がある。



河口部



中州のヨシ群落

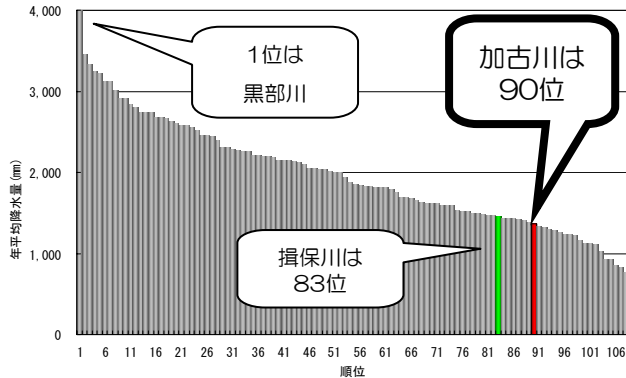
1.1.2.自然環境

気候

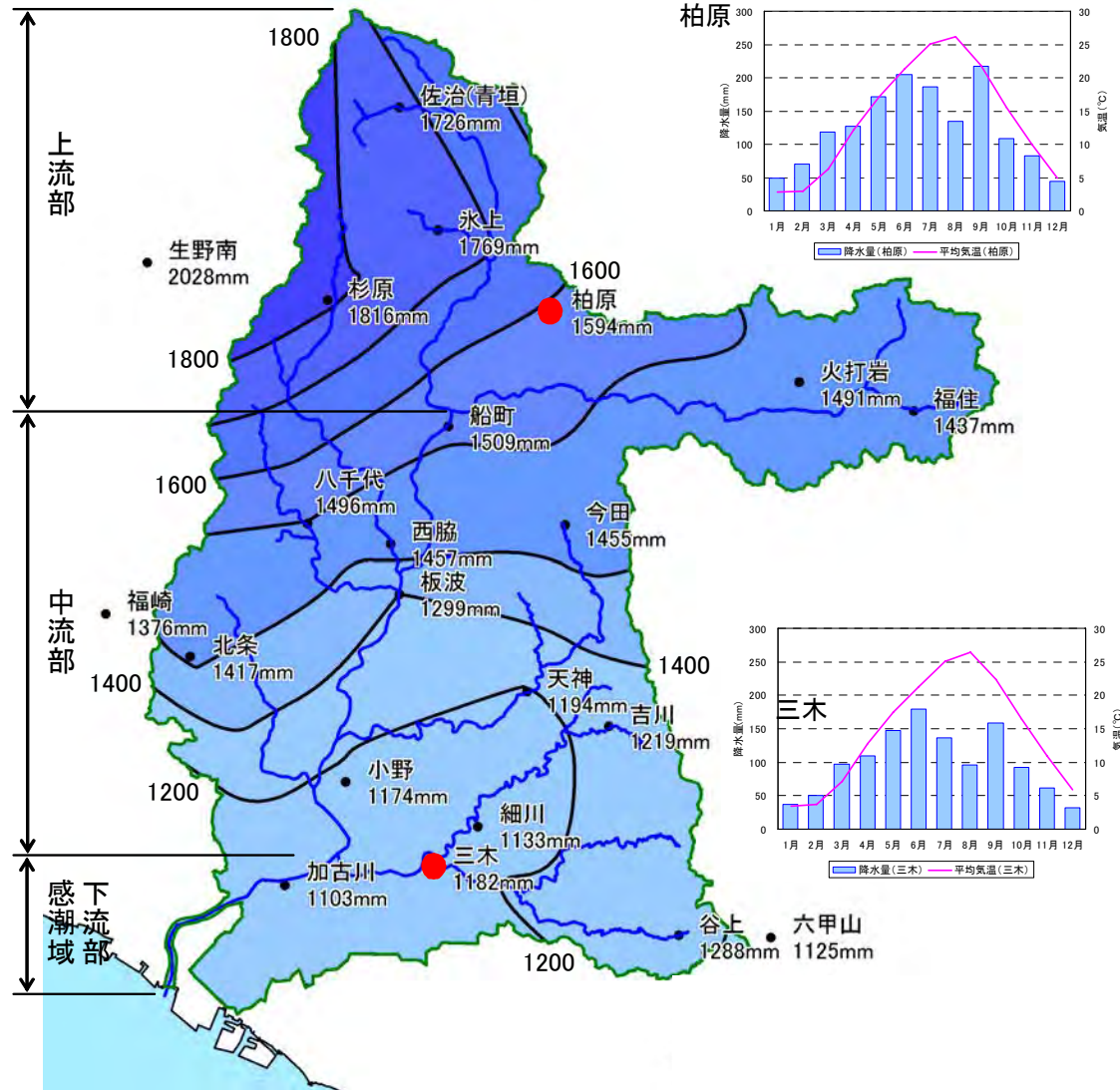
加古川流域は概ね、降水量が少ない瀬戸内海型気候に属する。

年間降水量

- ・ 上流部
約1,600mm
- ・ 中・下流部
約1,200mm



全国の河川との年平均降水量比較
(流域内年平均降水量)

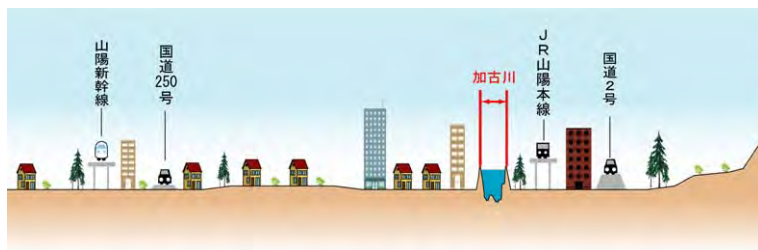
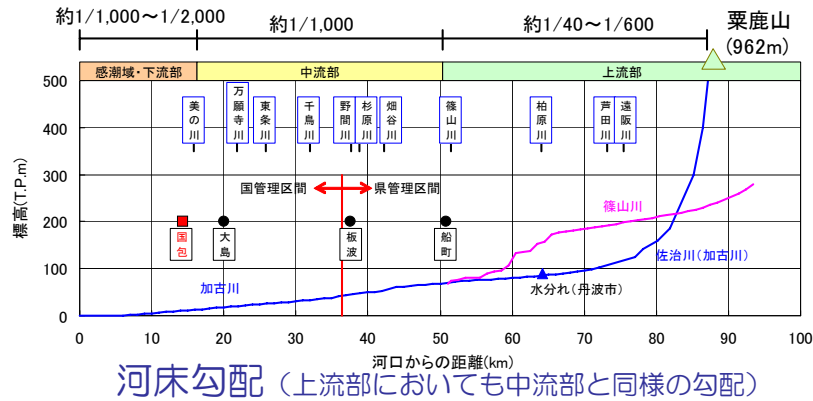


加古川流域年平均等雨量線図

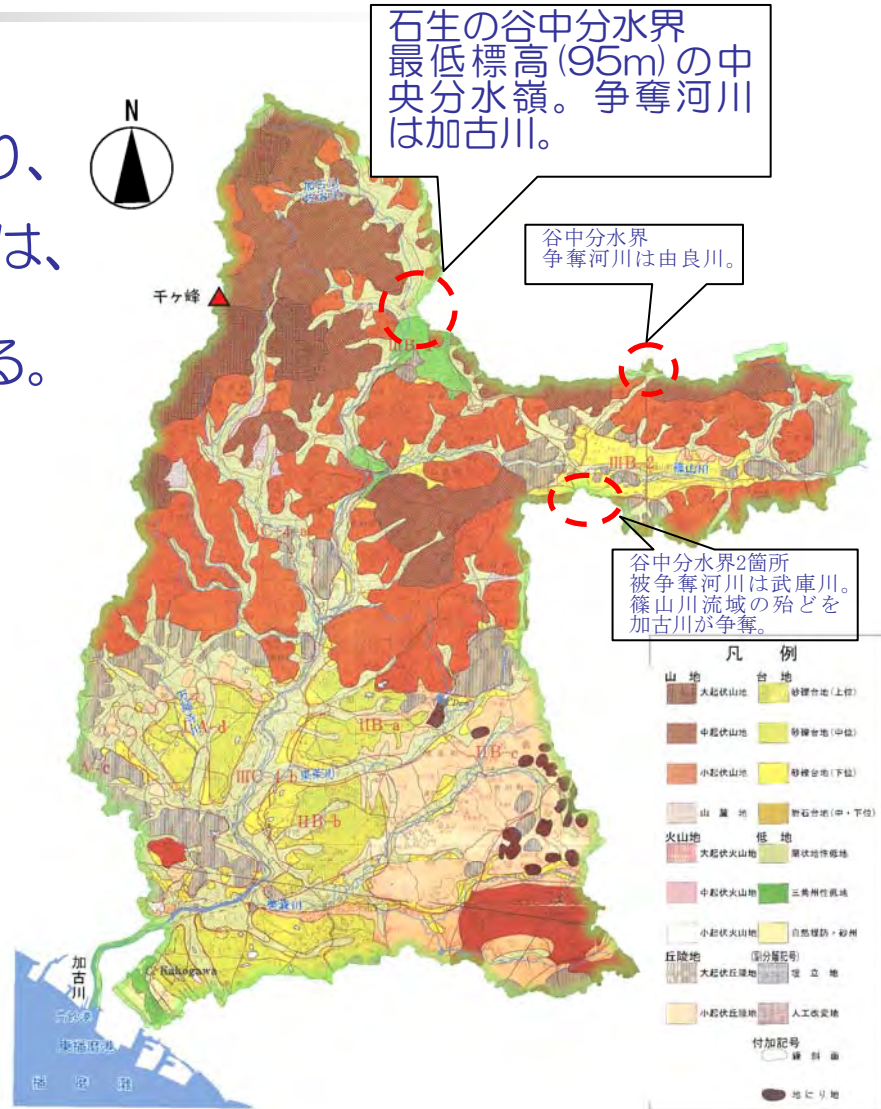
出典：国土交通省、気象庁観測値
 柏原・三木観測所：S54～H12年までの24年間平均値
 等雨量線図：H8～H18までの11年間平均値

地形

最上流部には谷中分水界が4箇所あり、
 いそう みわか
 丹波市氷上町石生「水分れ」の標高は、
 ちゅうおうぶんすいれい
 中央分水嶺で本州一低い95mである。



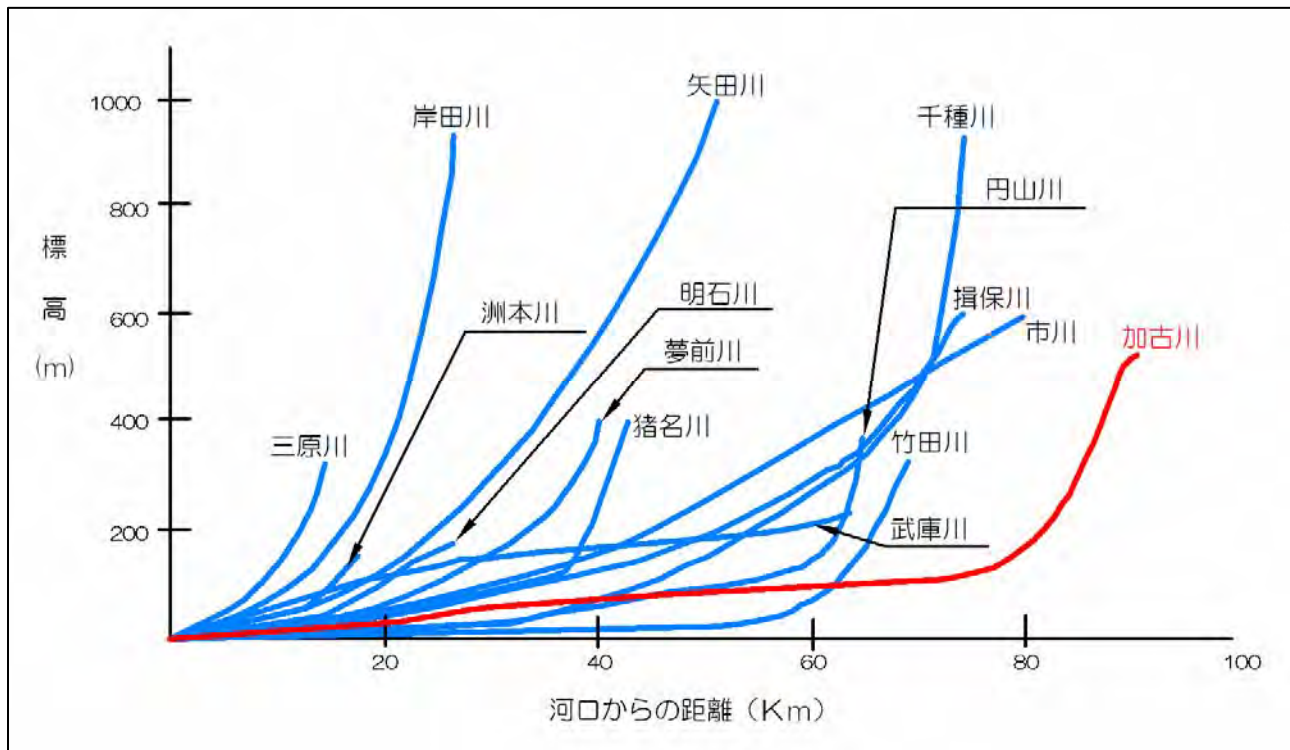
横断概要図 (加古川市街地【河口より5km】)
 加古川より周辺地盤が低い



加古川流域地形図

出典：土地分類図／(財)日本地図センター

加古川の河床勾配は兵庫県内の河川と比較して緩い。



加古川と他河川の河床勾配



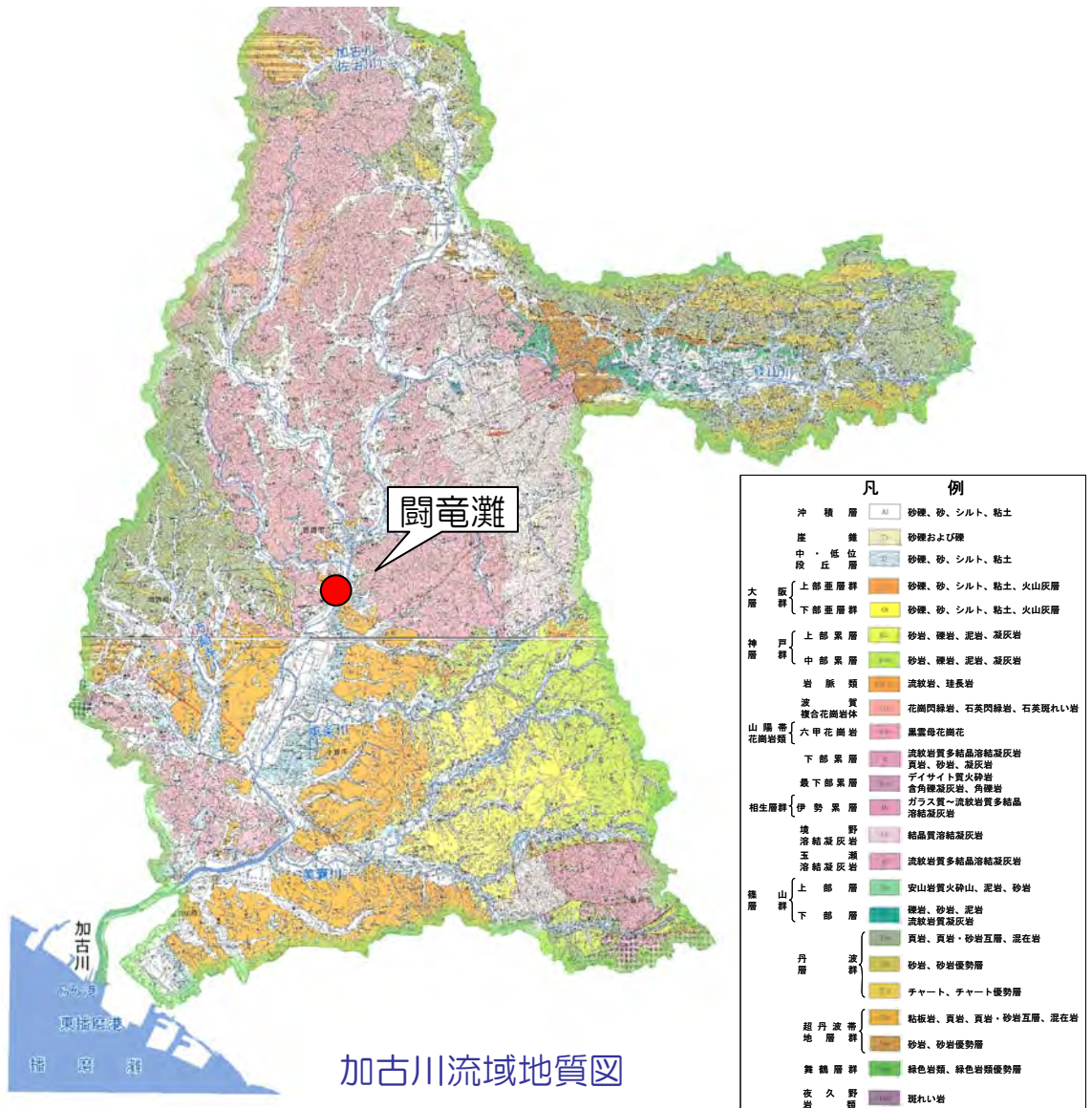
河川位置案内図

地質

上・中流部の山地の大部分が有馬層群。

中・下流部の丘陵地と台地に有馬層群、神戸層群、大阪層群が分布。

中流部には、「鬪竜灘」で代表されるように河床部の露岩が見られる。



加古川流域地質図

1.1.3.社会環境

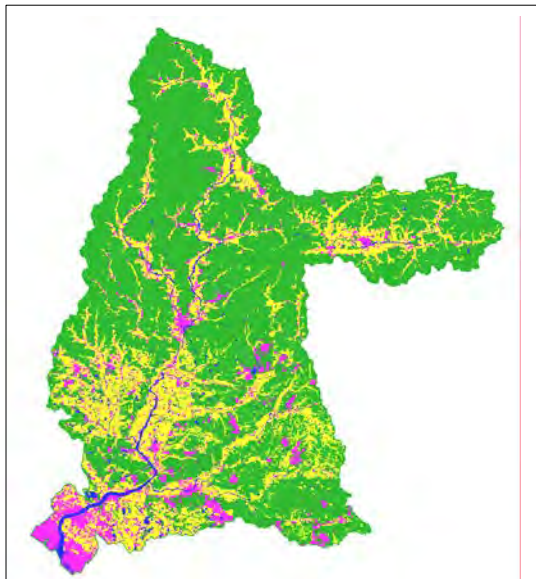
土地利用の推移

山地が59%、農地が26%、宅地等が11%、その他が4%

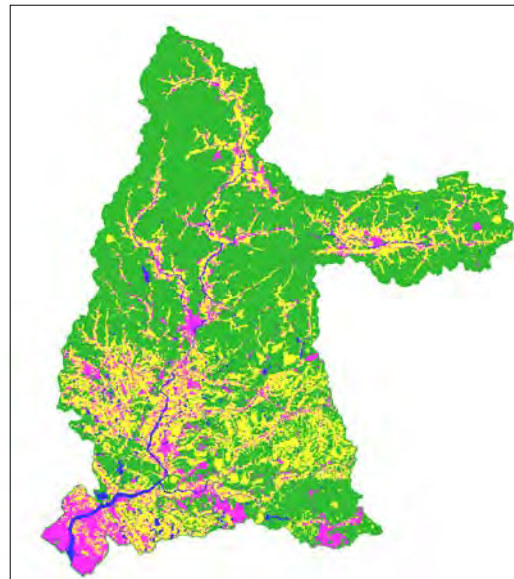
昭和51年と平成9年の比較結果

- 山地：減少
- 農地・宅地等市街地：増加

昭和51年



平成9年



	昭和51年	平成9年
農地	24.8%	26.1%
山地	63.5%	59.1%
宅地等市街地	8.7%	11.4%
その他	3.0%	3.5%

凡 例

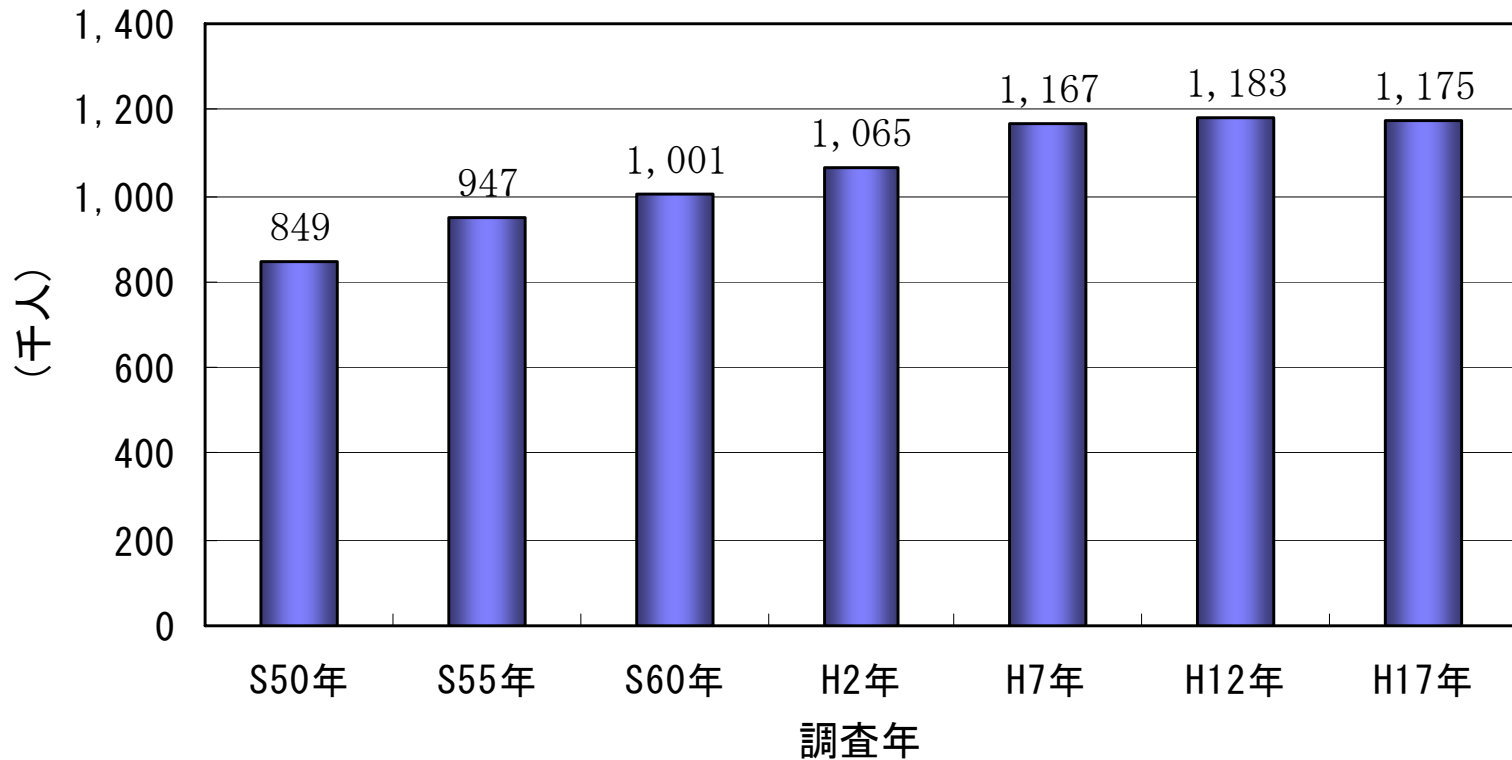
- ：山地
- ：農地
- ：宅地等市街地

加古川周辺の土地利用の変遷

出典：国土数値情報（土地利用メッシュ）

人口の推移

流域関連市町の人口：増加を続け平成17年には約117万人
(兵庫県全体の約21%)



流域関連市町（11市3町）の人口の変化
※神戸市は北区のみの人口

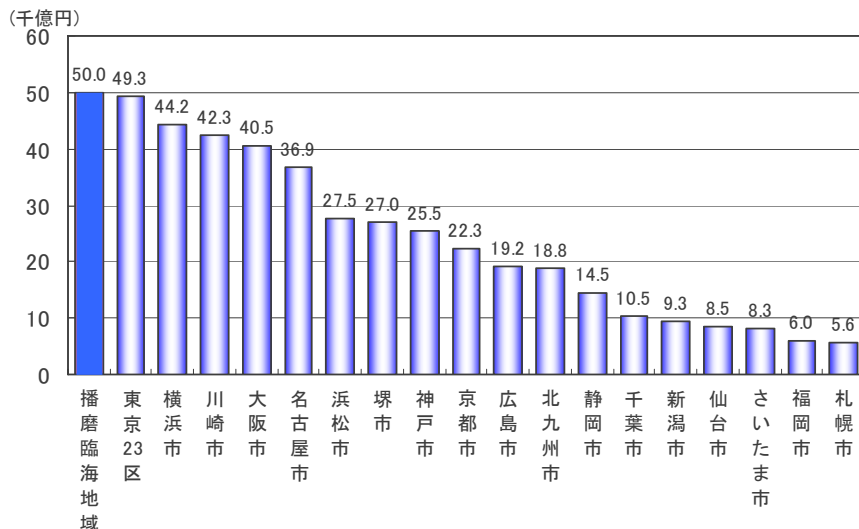
産業

河口部：播磨臨海工業地帯

製造品出荷額：62,111億円
(兵庫県全体の46%)

平成17年 関係市町全体

H18工業統計調査



中流部：染物、金物、そろばん等の伝統産業



染物

出典：播州織工業組合 HP



金物

出典：小野商工会議所HP



そろばん

出典：小野商工会議所HP

交通

陸海交通の要所となっている。

鉄道

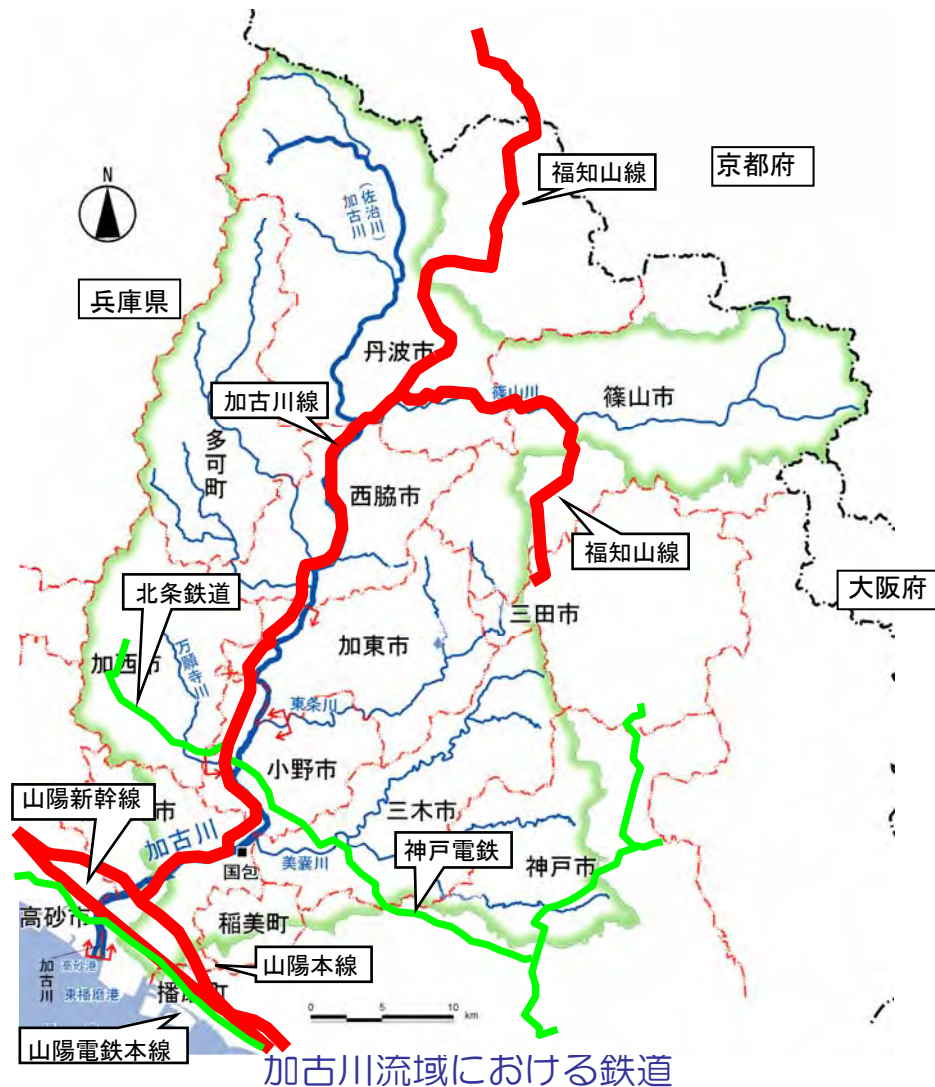
山陽新幹線、山陽本線、山陽
電鉄等

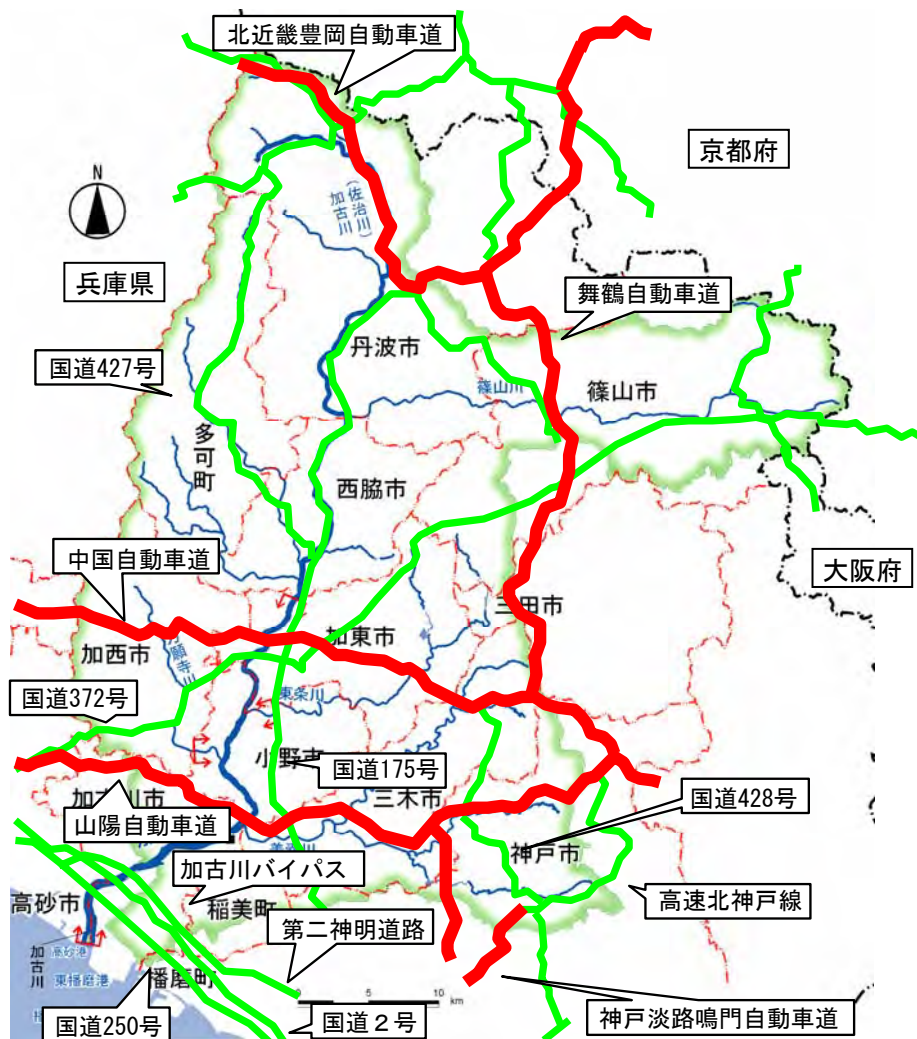
道路

山陽自動車道、中国自動車道、
国道2号等

港湾

東播磨港





加古川流域における道路



加古川流域における港湾

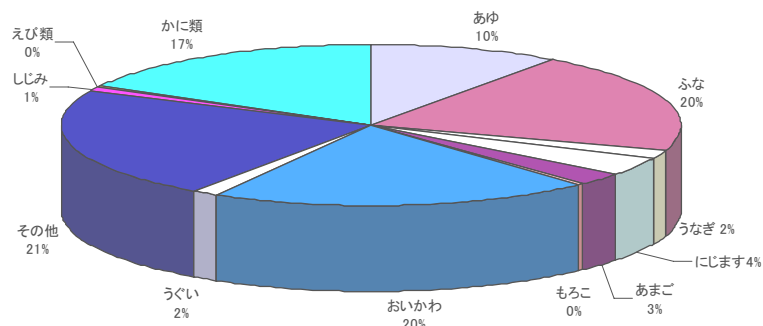
内水面漁業

主な魚種：アマゴ等のマス類、アユやオイカワ、フナ等

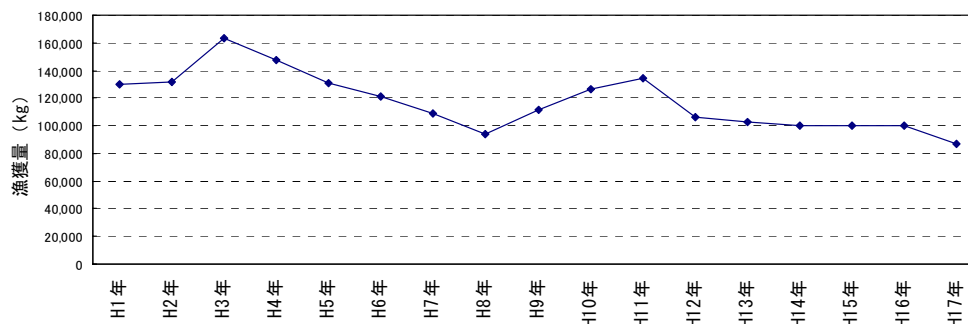
加古川における内水面漁業漁獲量（平成16年）

(kg)

あゆ	ふな	うなぎ	にじます	あまご	もろこ	おいかわ	うぐい	その他	しじみ	えび類	かに類	合計
10,000	20,000	1,500	4,000	2,500	200	20,000	1,500	22,000	1,000	150	17,000	99,850



加古川における内水面漁業漁獲量割合（平成16年）



加古川漁獲量の推移

出典：兵庫県統計書

1.1.4文化財・史跡

播磨が早くから開けた地域であったことは、文化財等が多数存在することからうかがえる。



浄土寺・浄土堂
(鎌倉 建久3)



朝光寺
(室町 応永20)



黒谷若宮八幡宮本殿
(室町 永禄7)



築山神社
(江戸 宝暦6)



鶴林寺本堂
(室町 応永4)



御坂サイホン
(明治24)



加古川流域の主な文化財

1.2.治水の現状

1.2.1.既往洪水の概要

既往洪水の一覧

発生年月日	発生原因	国包上流 2日雨量 (mm/2日)	国包地点 流量 (m ³ /s)	被害状況
明治40年8月	台風	190.2	不明	流出家屋：83戸、浸水家屋：2,999戸 浸水面積：14,375ha
大正10年9月	台風	212.5	不明	浸水面積：2,705ha
昭和20年10月	阿久根台風	240.1	7,800～9,050	浸水家屋：不明 浸水面積：不明
昭和40年9月	前線	208.4	3,600	家屋浸水：3,381戸 (床上：651戸、床下：2,730戸) 浸水面積：7,904ha
昭和45年6月	梅雨前線	218.6	3,000	家屋浸水：34戸 (床上：9戸、床下：25戸) 浸水面積：818ha
昭和51年9月	台風17号及び 秋雨前線	191.4	2,800	家屋浸水：1,800戸 (床上：143戸、床下：1,657戸) 浸水面積：5,923ha
昭和58年9月	秋雨前線	225.1	4,900	家屋浸水：2,034戸 (床上：368戸、床下：1,666戸) 浸水面積：1,013ha
平成16年10月	台風23号	216.7	5,900	家屋浸水：1,652戸 (床上：430戸、床下：1,222戸) 浸水面積：1,447ha

出典：「水害統計」、「兵庫県災害誌」および「市町村史」
 国包地点流量は氾濫戻し流量である
 S20.10は推定流量

昭和40年9月洪水

- ・2日雨量（国包上流流域平均）が209mmに達し、流域全体に甚大な被害が発生。

昭和40年9月13～17日洪水の被害状況

洪水名	要因	死傷者 (人)	建物被害			浸水面積 (ha)	被害額 (百万円)
			流失 (戸)	床上 (戸)	床下 (戸)		
昭和40年 9月17日	台風24号 ・前線	298	110	651	2,730	7,904	1,359

出典：水害統計



西脇市内の浸水状況（昭和40年）



遠阪川の溢水（丹波市青垣町：昭和40年）

昭和51年9月洪水

- ・2日雨量（国包上流流域平均）が192mmに達し、護岸の決壊、内水等の被害が発生。

昭和51年9月13日洪水の被害状況

洪水名	要因	死傷者 (人)	建物被害			浸水面積 (ha)	被害額 (百万円)
			流失 (戸)	床上 (戸)	床下 (戸)		
昭和51年 9月13日	前線	1	—	143	1,657	5,923	874

出典：水害統計



加西市の浸水状況（昭和51年）



高砂市内の浸水状況（昭和51年）